



# 学校だより

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを ともに生きよう感謝の心で

令和6年 2月号

学校HP

横浜市立谷本小学校



## 「経験そして分かる喜び」

副校長 松井 康仁

谷本小学校に赴任してあっという間の1年が過ぎようとしています。初めて赴任した時の、自然がいっぱいある素敵な学校だなと抱いた感想がつい昨日のように感じられます。実際に谷本小学校では、筍や梅、柚子などの自然の恵みがたくさんあり、季節の移り変わりを感じる事ができる1年間でした。そんな豊かな自然に向き合っていると、ふと竹細工に没頭した日々を思い出しました。

ある時本屋さんで歴史の本を見ていると、古田織部が千利休の形見として持っていた歴史的に有名な茶杓(ちゃしゃく)があり、今も大切に受け継がれていることを知りました。「よし、自分も茶杓を作ってみよう。」と思い立ち、見よう見まねで作ってみることにしました。結果、全くうまくいかず、削っていくうちにどんどん細くなっていき、最後には耳かきのようになっていました。「これは何か上手に作るコツがあるに違いない。」と思い、竹細工の本を



手に入れ、じっくり調べると色々なことが分かってきました。例えば、採ってきた竹を細工するときには、「油抜き」という作業をしないと、せっかく作ったものが長持ちしなくなってしまうこと。竹を削るときは太くする方から細くする方に向けて刃を入れないと、繊維に沿ってどんどん細くなっていき、取り返しがつかなくなってしまうこと。まさにその通りでした。また、竹には真竹(まだけ)、孟宗竹(もうそうちく)、黒竹(くろだけ)、煤竹(すすだけ)など様々な種類があり、成長した年数によっても性質は大きく変わるため、細工するものによって適した竹を選ぶ必要があることをも知りました。竹について詳しく知れば知るほど、「よいものを作りたい」という意欲が掻き立てられ、結局20個ぐらい作ってみて、やっとそれなりの形に見えるものが作れるようになったとき、上手にできたという達成感だけでなく、そういうことだったのかという分かる喜びがありました。

谷本小学校では体験や経験を通して、様々な学びのある授業や行事を行ってきました。またそれだけでなく、地域の皆様やゲストティーチャーにもご協力いただき、たくさんの貴重な体験をしてきました。体験を通して学ぶことはとてもたくさんあります。これからも、子どもたちの体験や経験を通しての学びや、それによって生まれる喜びを大切にしていきたいと思えます。